

青年部会 会長 小西 孝英 (春日宅建)

平成24年10月20日(土)宅建協会青年部会の事業活動の一環として、大阪府伊丹市で開催されました「伊丹まちなかバル」というイベント視察と、このイベントの主催者であるNPO法人「いたみタウンセンター」様からイベント開催に至るまでの経緯や現状等についての研修を受けに行きました。

研修会、イベントの報告の前に、まず「まちバル」とは何かについて説明をさせていただきます。現在日本国内では長びく経済低迷による、消費の低迷、地方経済の衰退、地元の商店街、飲食店の衰退が深刻な問題となっております。その現状を打破するべく平成16年に函館で始まった地域活性・地域交流を創出することを目的としたバル(=飲食)イベントで、現在では全国にどんどん広がっており、近畿でも2府4県、大阪市内だけでも30地域で開催されているようです。今回訪れた伊丹市では平成21年より開催され、現在では春と秋の年2回行われており、我々が視察したのは7回目(今年2回目)でした。

開催形式は、お客様がチケット(5枚綴り3,500円/前売り3,000円)を購入し、参加店舗を食べ歩き、飲み歩きます。参加店舗はイベント用にチケット1枚(700円)で飲食できる「バルメニュー」というものを作ります。もちろんお客様は「バルメニュー」以外の通常のメニューを別途注文(通常料金)でき、参加店舗はイベントに参加しながら普段通り営業ができるようになっていきます。

徳島市内でも最近「はなはるフェスタ」や「とくしまマルシェ」等のイベントが開催されており

ますが、1カ所の会場に店舗が出店するという徳島のイベントと違い、「まちバル」では、お客様に直接お店に足を運んでもらえるので、イベント当日店を閉めることなくまた普段のメニューも販売できるということで、イベント参加への様々な(出店コスト・移動・休業等)負担が少ないことが、第1回目の開催で参加店舗数54件・チケット販売数1,500枚だったものが、3年で96店舗・チケット販売数4,200枚まで増えた要因になっているのではないのでしょうか。

実際に「まちバル」に行ってみると、土曜日だったこともあるかもしれませんが、普段はおそらく人通りのないような(お店はありますが)裏通りまでお客様が参加店ガイド(地図)を広げながら歩いていて、人気のある店には行列ができるほどのにぎわいを見せておりました。

また、今回の「まちバル」では「オトラク」という別のイベントも同時開催されており、様々なジャンルのミュージシャンがお店の内外でライブ演奏をして盛り上げていました。

研修会で行ったこともあり時間の関係で滞在時間はわずかでしたが、参加した青年部会員の中には「もう少しゆっくりと楽しみたかった」と少々物足りなさを感じながら帰路についた部会員もいると思います。何故なら、このイベントがそれだけ楽しいイベントであったと思うからです。このようなイベントが今後徳島でも開催され、徳島のまちが元気になることを切望すると共に青年部でもこの研修を通じて学んだことや、肌で感じたことを具現化し、参加者全員が楽しめるようなイベントができればと思いました。



写真撮影：
山田奈美
高山正好